

東北再生 「私大ネット36」 10年間の軌跡

成果報告シンポジウム



東北再生「私大ネット36」とは、東日本大震災からの復興にあたり、教育的視点から支援活動を行っていくため、2012年に発足した私立大学27校の連携活動団体です。発足より毎年、宮城県南三陸町をフィールドとしたプログラム「南三陸スタディツアー」を実施。本年度をもって活動を終了するに伴い、10年間の成果報告として、シンポジウムを開催いたします。

第1部

南三陸町と私大ネット36



10年間の軌跡

成果報告シンポジウム



「私大ネット36」10年間の軌跡

大正大学 総合学修支援機構DAC 専任講師

齋藤 知明

10年間の軌跡

成果報告シンポジウム

A photograph of a classroom or lecture hall. In the foreground, several students are seated at white tables, some looking at laptops. In the background, a lecturer in a blue jacket is standing and pointing at a whiteboard. Other students are seated at tables further back, some looking at their phones or laptops. The room has large windows with curtains and wooden paneling on the walls.

「私大ネット36」10年間の軌跡

大正大学 総合学修支援機構DAC 専任講師
齋藤 知明

自己紹介

東北再生「私大ネット36」

「私大ネット36」の10年

まとめ

自己紹介

大正大学 総合学修支援機構DAC（主に初年次教育の部門）所属

宮城県の隣の山形県出身

サービslラーニングなどの実践系授業や活動を主に担当

専門は宗教学、被災地の宗教者・宗教団体の支援活動を調査

2013年3月に南三陸に初上陸（私大ネット36・いりやどのOP）

2014年夏から6回、Actの引率を務める

2017年からは地域実習、サービslラーニングツアーの担当

※この写真は初めて南三陸に行った時のものです（8年前）



少しだけ自分の話

2011年3月11日に東京で震災を経験

14日に「南三陸の被災のニュース」を見る

ボランティアに行くことを考えたが、家庭の事情で断念

その後、ずっと後悔が残ったままだった

2013年2月に私大ネット36の案内が届きすぐに応募

以降、南三陸に学生を連れて行くハブ役が使命に

もう少しだけ自分の話

南三陸との関わり



東北再生「私大ネット36」

東北再生
「私大ネット36」

**被災地で学ぶのではなく、
被災地に学ぶ**

東北再生「私大ネット36」

設立目的

私大ネット36は、東日本大震災後の復興にあたり、今後10年間にわたって、教育的視点から支援活動を行っていくため発足しました。加盟校がゆるやかに連携しながら、自由で独自性のある活動を実施できる環境を創出していくことを目的としています。日本の次世代を担うべき今の大学生が、現地に集い、交流する中で、社会的視野を拡大し、人間として成長していくことを期待しています。

下線強調は報告者

東北再生「私大ネット36」

加盟校一覧 全27校

● [こども教育宝仙大学](#)

● [大正大学](#)

[学習院大学](#)

[京都ノートルダム女子大学](#)

[國學院大學](#)

[淑徳大学](#)

[大東文化大学](#)

[帝京平成大学](#)

[東京音楽大学](#)

[日本女子大学](#)

[花園大学](#)

[松本大学](#)

[立教大学](#)

[立正大学](#)

● [埼玉工業大学](#)

[大谷大学・大谷大学短期大学部](#)

[京都華頂大学](#)

[京都文教大学](#)

[駒澤大学](#)

[女子栄養大学](#)

[鶴見大学](#)

[東海学園大学](#)

[東京女子大学](#)

[白鷗大学](#)

[佛教大学](#)

[身延山大学](#)

[立教女学院短期大学](#)

東北再生「私大ネット36」

主な活動



スタディツアー



シンポジウム



午前9時 → 午後4時



2013.3 (私大ネット36) いりやどオープニングプログラム

がれき撤去やいりやどの花壇づくりなど、復旧復興のための作業に関わらせてもらった。いりやどでは多くの研修を受け、南三陸で学ぶことの可能性が拓けた。



2014.9 (私大ネット36)

子どもと教育の現場から学ぶ旅

南三陸や気仙沼のさまざまな教育現場におもむき、こどもたちと遊び元気をもらうとともに、大人たちの南三陸ならではの教育理念をうかがった。



2015.3 (私大ネット36) 東北の3.11を感じる旅

3.11に関わる慰霊祭や追悼式典に参列し、ただただ祈った。そして、子どもたちが安全に遊べる環境作りにたずさわった。



2015.8 (私大ネット36) 子どもたちとともに未来を考える

学校の教育と民間の教育。南三陸における両者の連携を考えるため、町の未来を真剣に見据えている大人たちに話を聞いた。



2016.2-3 (私大ネット36) 東北の「復興」を創る旅

この1年後に仮設から本設へ移るさんさん商店街。そこを舞台に、新しいコンセプトを店主とともに創ることができないか、夢中になって考えプレゼンをした。



2016.8 (私大ネット36) 地域のコミュニティづくりを考える旅

震災から5年。仮設住宅から公営住宅へと移転が進む町で、そこに住む方々とお茶を飲みながら会話を楽しんだ。そして、コミュニティ再構築の難しさも知った。



2017.2 (私大ネット36) 地域のコミュニティづくりに関わる旅

半年前に会った方々にもう一度会いに行こう。ものすごいスピードで町が変わるなか、この半年で何が変わり、何が変わらなかったのか。その現実を見にいった。

「私大ネット36」の10年

1. 年表から
2. プログラムの数と内容
3. 参加学生

東北再生「私大ネット36」の歩み

2011年	2012年	2013年
3月11日	2月24日	11月29日
4月～	4月1日	20～23日
		9月13～16日
		12～14日
		8月8～10日
	6～10日	
	9月2～5日	
	10～12日	
	14～17日	
	18～20日	
		3月18日
		28～31日
		22～24日
		19～22日

第1回シンポジウム「これからの大学ボランティアを考える」開催

2013年サマープログラム実施！
プログラムを導入・発展に分ける

Act④復興への希望の旅

Act③記憶を辿る旅

Act②本場に大切なコトに出会う旅

Act①本場に大切なコトに出会う旅

いりやど始動！
オープニングプログラム実施！

オープニングプログラム②実施（2大学34名参加）

体験学習ツアー実施（5大学55名参加）

「南三陸まなびの里いりやど」を利用したの初プログラム
オープニングプログラム①実施（2大学38名参加）

私大ネット36の活動拠点である「南三陸まなびの里いりやど」オープン

大正大学 環境ミニミニコースセミナー合宿 実施

大正大学 鴨台スタッフ研修会 実施

私大ネット36としての初プログラムであるプレプログラム実施
（埼玉工業大学、立正大学 参加）

大正大学 表現学部 南三陸プロジェクト 実施

國學院大学ボランティアプログラム 実施

東北再生「私大ネット36」発足

私大ネット36設立記者会見実施

各大学によるボランティア活動開始

東日本大震災発生



始めてのシンポジウムで、ポスターセッションの説明をする学生



地元の商店のお手伝い。南三陸の産品をもっと東京で流通させるにはどうしたら良いか考えました (Act4)



いりやど近くの荒廃した山の整備を行いました (Act1,2)



村祭りの見学と、地元のお年寄りへのインタビューを行いました (Act3)



わかめ漁家さんのお手伝い（オープニングプログラム）



5月、イースター島よりモアイ像が贈られる



いりやどオープニングセレモニーの様子



廃校を利用した宿泊施設「さんさん館」で実施しました



災害ボランティアセンターに登録し、がれき撤去作業（プレプログラム）



2月、さんさん商店街オープン



文部科学省で行われた設立記者会見の様子



4月、第一回復興市開催



震災直後の防災対策庁舎

南三陸町の歩み

2014年

2015年

2月18～20日

25～28日

3月4～7日

10～13日

7月30～8月2日

8月19～22日

9月1～4日

4～7日

11月1～3日

11月8日

2月17～20日

24～27日

3月10～13日

17～20日

5月30日

8月7～10日

21～24日

9月1～4日

25～28日

10月31日

2014年春スタディツアー実施！
國學院大學からも企画・引率に参画

- Act④津波の記憶を繋ぐ旅
- Act③折りの形を探る旅
- Act②初めての被災地・初めてのボランティア
- Act①初めて歩く南三陸



社員の殻についてゴミを取るお手伝いをしました (Act3)



雪の残るなか町歩きを行いました (Act1)



あの日から丸3年 追悼式典

2014年サマープログラム実施！
さらにテーマが多様化！

- Act②追加ツアー
- Act④子どもと教育の現場から学ぶ旅
- Act③里山・里海を守る旅
- Act②「仕事」から未来を探る旅
- Act①記憶をたどる旅



地域のお年寄りにインタビューを行いました (Act1)



気仙沼あそびーばーで渡しそうめんを行いました (Act4)



清水建設さんが志津川小学校で行った木工教室のお手伝いに行きました (Act2)



これから大学が地域とつながることを考える

第2回シンポジウム「これから大学が地域と共に行えることを考える」開催

2015年春南三陸スタディツアー！
震災から4年
これからについて考えました

- Act④物語を紡ぐ旅
- Act③東北の「こ」を感じる旅
- Act②道にまなび、道をつなぐ旅
- Act①南三陸の「いま」に学び、私達の「将来」を考える旅



南三陸町の林業に携わる方から講義いただきました (Act1)



避難道としても使った旧道を歩きました (Act2)



東日本大震災南三陸町追悼式 (Act3)



子どもと物語を考えました (Act4)



震災から4年経った南三陸町沿岸の様子

2015年春南三陸スタディツアー報告会開催

2015年夏南三陸スタディツアー！
「くらし」「いのち」「教育」「復興支援」
未来について考えました

- Act④復興支援の変遷をめぐって
「今できること、これからやるべきことを考える」
- Act③子どもたちとともに未来を考える
- Act②南三陸で「いのち」について考える
- Act①エネルギーのあり方を考える



現地の方の体験を聞き、「いのちでんでんこ」について考えました (Act2)



再生可能なエネルギーについて考えました (Act1)



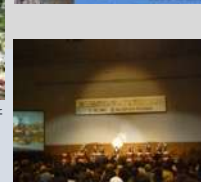
沿岸部では嵩上げが始まっています



絵日記を通じて交流を深めました (Act3)



「橋の避難路」のため、橋を植栽しました (Act4)



南三陸ボランティア感謝のついで

2016年

2017年

2月15～18日

23～26日

2月29～3月3日

9～12日

6月11日

8月19～22日

24～27日

9月4～7日

12月3日

2月16～19日

21～24日

3月1～4日

6月3日

8月18～21日

29～9月1日

9月4～7日

12月2日

2016年春南三陸スタディツアー！ 震災から5年 様々な視点から 現地の「復興」を考えました

Act ①生産者と出会う旅

Act ②「復興」への物語を聴く旅

Act ③東北の「復興」を創る旅

Act ④森・里・海・人をつなぐコミュニティを考える旅



一次産業の体験を通して復興を考えました(Act1)



住民の方と一緒に物語を作りました(Act2)



新たなさんさん商店街をイメージして
商品などの提案をしました(Act3)



自然(森・海)と人の共存について
考えました(Act4)



南三陸町追悼式

2016年春南三陸スタディツアー報告会開催

2016年夏南三陸スタディツアー！ 今だけの町の姿 昔からの町の姿に触れました

Act ①地域のコミュニティづくりを考える旅

Act ②森里川海と未来の物語を紡ぐ旅

Act ③地元のもの、「製造」から「販売」まで丸ごと体験する旅



小さな集落を訪れ、その様子を映像にまど
めました(Act2)



仮設住宅・公営住宅などでお話をうかがい、
コミュニティについて考えました(Act1)



水産加工物の製造販売を体験し、関東で
実際に販売しました(Act3)

第4回シンポジウム「東北とともに歩む私たちの未来」開催

2017年春南三陸スタディツアー！ 町の未来を見据えた活動を 実施しました

Act ①「商売」×「南三陸町の将来」

Act ②地域のコミュニティづくりに関わる旅

Act ③「ひと味がう」私だけの旅づくり



道の駅で南三陸の物産を販売しました
(Act1)



仮設・公営住宅で交流を深めました
(Act2)



サイエンスをテーマにツアーを企画
しました(Act3)



道路を挟んで臨む防災庁舎

2017年春南三陸スタディツアー報告会開催

2017年夏南三陸スタディツアー！ 人や人が作り出すまちを 五感で感じました

Act ①南三陸のこどもたちと元気を共有する旅

Act ②風土とフードをめぐるコミュニティデザイン

Act ③「生き心地の良い」まち作りを考えるツアー



ロボットや紙飛行機などをこどもたちと
楽しみました(Act1)



現地のお宅を訪問し郷土料理を味わいまし
た(Act2)



まちの集会所で交流を深めながらまち
づくりを考えました(Act3)



左奥に小さく見える防災庁舎

南三陸町の歩み

2018年

2019年

2月23～26日

3月9～12日

6月11日

8月17～20日

27～30日

27～30日

12月8日

2018年春南三陸スタディツアー！
“今”の南三陸の声を聴き
自らの生き方・働き方を考えました

Act①南三陸の語りをあつめよう！

Act②君たちはどう生きるか



テレフォノスコープで人々の声を集め、南三陸の「今」について考えました(Act1)



サバイバル体験やマインドフルネスを通して、自らの未来について考えました(Act2)



山のアクティビティ：行者の道を散策し自らと向き合いました(Act1)



南三陸町追悼式



防災庁舎

2018年夏南三陸スタディツアー！
セルフケア、食文化、ものづくりを
テーマに実施しました

Act①Reborn（再生）～セルフケア力を養う

Act②南三陸ソルトツアー～風土と人々に出会う塩の旅～

Act③本当に必要な“もの”づくりを考える



南三陸の海水を利用し、塩づくりを行いました(Act2)



災害に備えるための“もの”づくりについて学びました(Act3)



第9回シンポジウム「災害と向き合うということ」開催

2019年春南三陸スタディツアー！
南三陸から学んだことを
一人一人ができることを考えました

Act①君たちはどう生きるか

Act②南三陸の魅力を情報発信しよう！



南三陸の日の出を臨む(Act1)



南三陸の魅力のひとつ田東山(Act2)

2019年夏南三陸スタディツアー！
食文化、震災、セルフケアを
テーマに実施しました

Act①「食」の楽しさでつながる旅

Act②防災～あの日の震災を忘れない～

Act③Reborn（再生）～セルフケア力を養う～



小学生のみんなとキャベツ1個の震っばの枚数を数えました(Act1)



デジタルデトックスで携帯電話がない4日間を過ごします(Act3)



南三陸町役場の方の防災に関する講和(Act32)



高台に囲まれた防災庁舎



第10回シンポジウム「東日本大震災の被災地に向き合う企業の姿勢に学ぶ」開催

南三陸町の歩み

55

※コロナ禍で中止となった2020年春を除く

プログラムの内容

2012年-2014年	生活支援期（ボランティア）
2015年-2017年	探究実践期（スタディ）
2018年-2019年	価値共創・自己研鑽期
2020年-現在	オンライン挑戦期

大学・大学生ができる復興支援

1. 支える
2. 交流する
3. 学ぶ
4. つなぐ

立教大学コミュニティ福祉学部2016『復興支援ってなんだろう？』

生活支援期（ボランティア）

- 本当に大切なコトに出会う旅
- 復興への希望の旅
- 初めての被災地・初めてのボランティア
- 祈りの形を探る旅
- 津波の記憶を繋ぐ旅
- 里山・里海を守る旅
- 子どもと教育の現場から学ぶ旅

価値共創・自己研鑽期

- 南三陸のこどもたちと元気を共有する旅
- 風土とフードをめぐるコミュニティデザイン
- 「生き心地の良い」まち作りを考えるツアー
- 君たちはどう生きるか
- Reborn（再生）～セルフケア力を養う～
- 南三陸ソルトツアー ―風土と人々に出会う塩の旅―
- 南三陸の魅力を情報発信しよう！
- 防災～あの日の震災を忘れない～

探究実践期（スタディ）

- 東北の3. 11を感じる旅
- エネルギーのあり方を考える
- 南三陸で「いのち」について考える
- 子どもたちとともに未来を考える
- 「復興」への物語を聴く旅
- 森・里・海・人をつなぐコミュニティを考える旅
- 地域のコミュニティづくりを考える旅
- 地域のコミュニティづくりに関わる旅

オンライン挑戦期

- 自分の目線で、南三陸の魅力を伝える！～水産資源のワークショップ～
- “VR”しごとツアー～南三陸の同世代と考える未来の働き方～
- 南三陸公式youtubeチャンネルをバズらせろ！

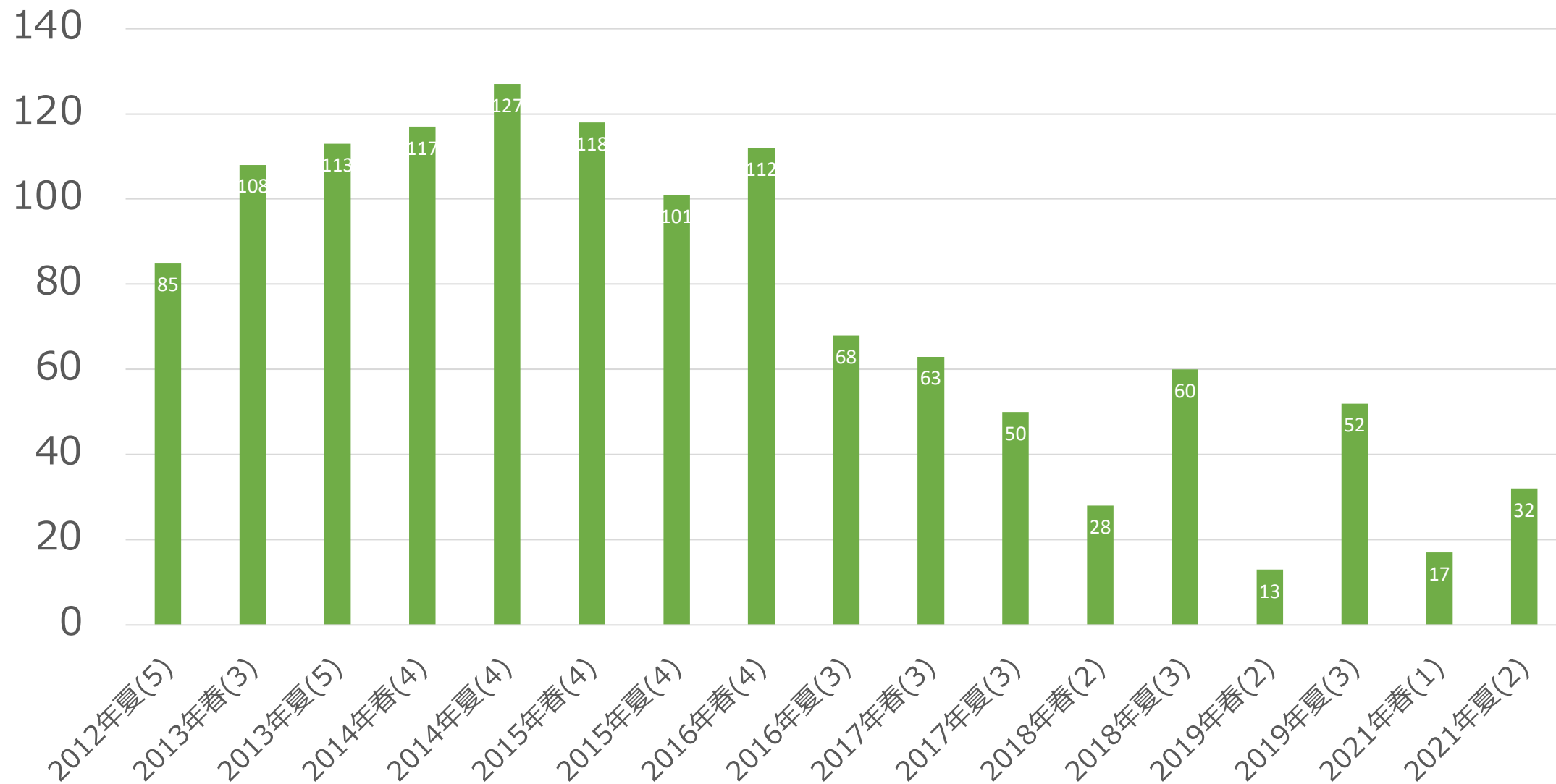
参加学生延べ人数

1,257

参加学生大学別内訳

合計		学生												教員	職員	その他
学生・ 教職員	学生	大正	國學院	学習院	日本女	立正	埼玉工	こども	立教	立教女	佛教	花園	身延山			
1382	1257	739	223	14	15	43	128	58	2	1	17	11	6	81	39	5

参加学生推移



() 内の数字は開催プログラム数

まとめ

南三陸の復興ニーズ、町の変化とともに歩んできた10年

震災とコロナ、価値・価値観が大きく変わった10年

復興に大きく・多く大学生が関与した10年

震災が「遠い」世代が大学生になってきた10年

少子化時代に「大学」の在り方も変わった10年

着実に蓄積してきた10年



個人的には

- もったいないなあ
- 自分が最も学ばせてもらった自覚



ご清聴ありがとうございました！

そして、私大ネット36、本当にありがとうございました！

https://stutais365-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/sl1b_saito_odai_tais_ac_jp/EqgeR_dpl7pJu-4WoiB2gVUBjzABofoimRHCEv07akohIA?e=u1gCGR

第1部

南三陸町と私大ネット36



南三陸町にとって

「私大ネット36」とは何だったのか

一般社団法人 南三陸研修センター

浅野 拓也 氏

10年間の軌跡

成果報告シンポジウム



私大ネットが南三陸に
もたらしたものの

私大ネットの南三陸への貢献

産業

文化／教育

コミュニティ

私大ネットの南三陸への貢献

産業

文化／教育

コミュニティ



実施プロジェクト数

56 プロジェクト

私大ネット参加人数

1,200 名以上



いりやどOPENからの
累計宿泊者数

51,535 名







新プログラムのモニター 貴重なマーケティングデータ



震災前までは隣り合った漁師でも
連携することはなかった。

たくさんの学生が訪れてくれることで
漁師も協力して漁業体験の受け入れなどを
行うようになった。

SNSへの挑戦や、
実際にプログラムを体験してもらって
学生目線でフィードバックをしてもらったり。

学生との交流からたくさんのヒントを得ています。

高橋直哉さん

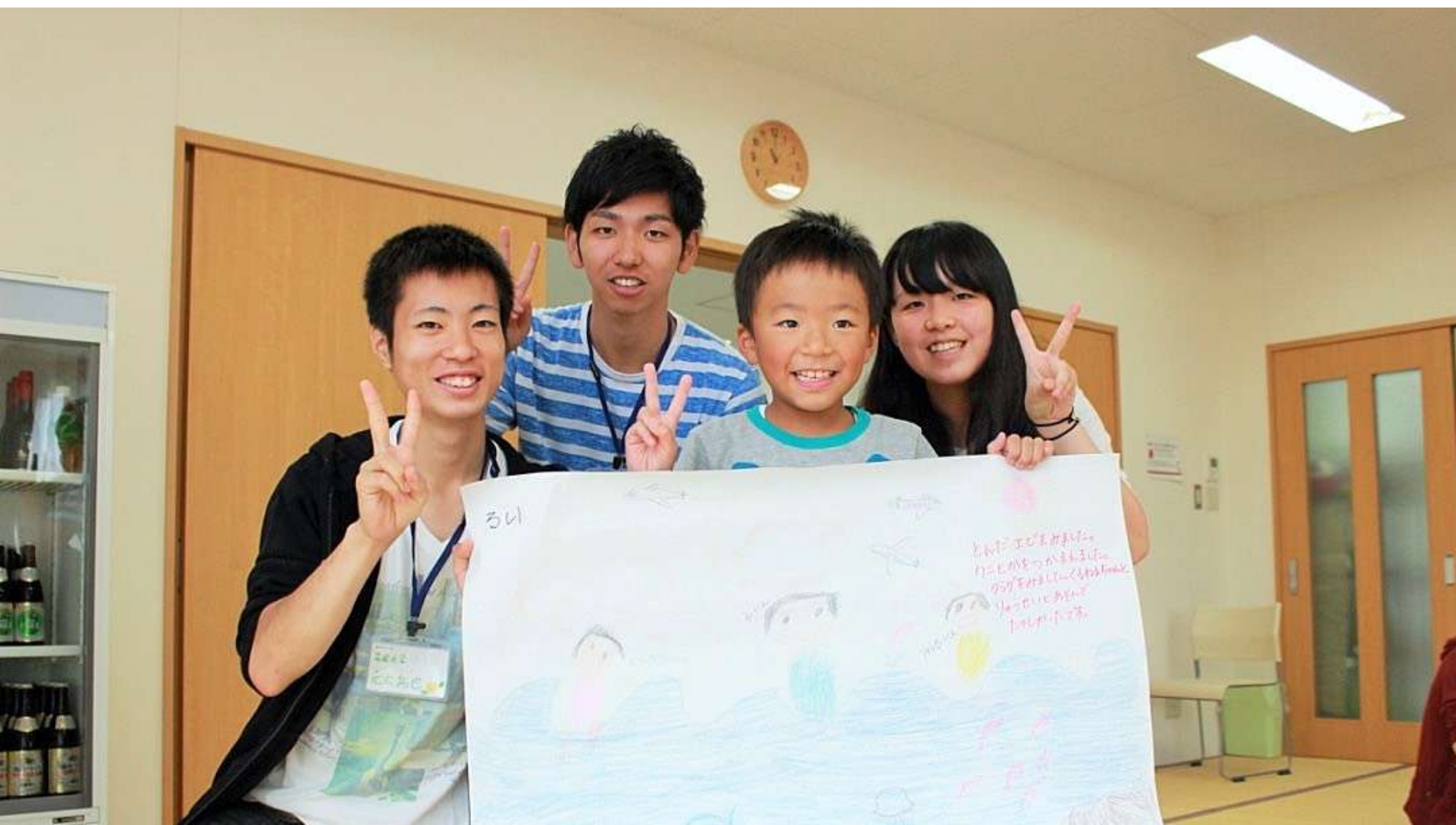


私大ネットの南三陸への貢献

産業

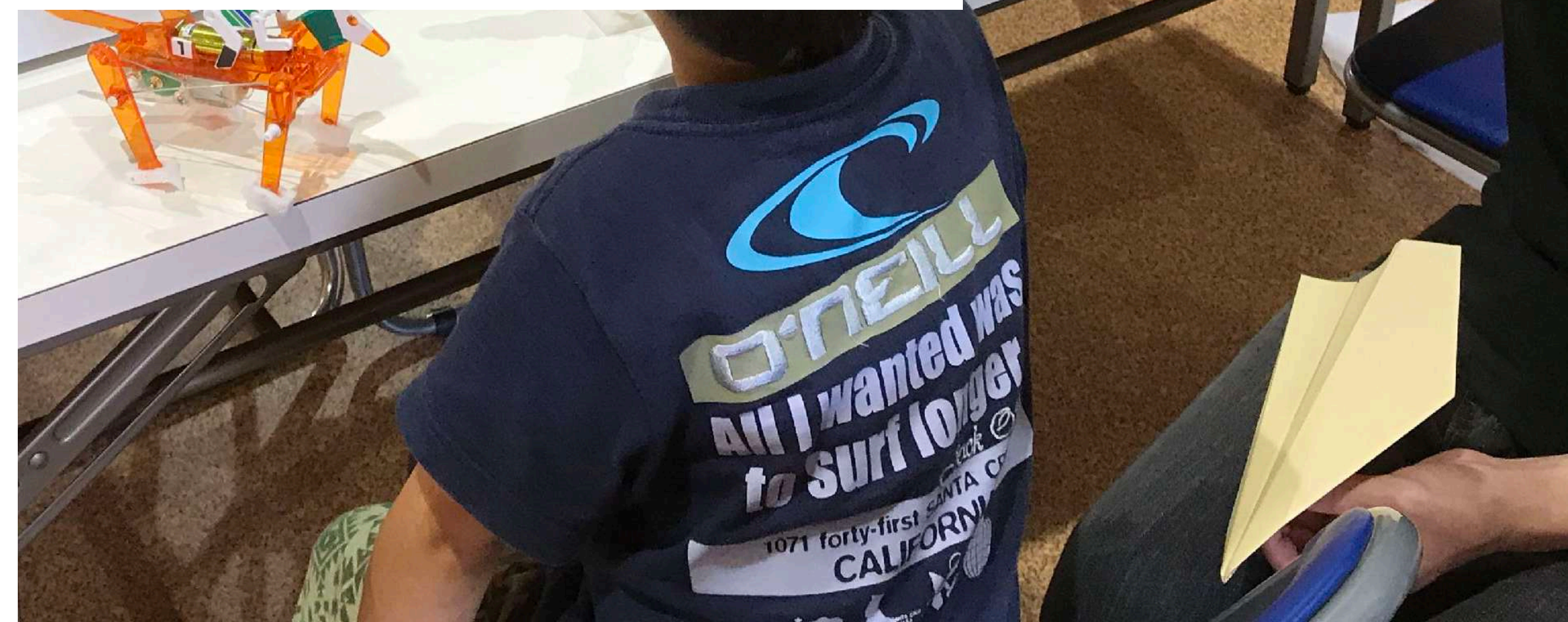
文化／教育

コミュニティ





町にぽっかりと抜ける 身近なお兄ちゃんお姉ちゃん



震災があっても失われなかった
昔から根付いてきた文化や風習。

私たちにとっては当たり前のもので
学生たちは「すごい！」「おもしろい！」
とリアクションたっぷり。

そんな学生たちに伝えることで
私たち自身も町の文化や風習をもう一度
見つめ直すことができたんですね。

工藤真弓さん



私大ネットの南三陸への貢献

産業

文化／教育

コミュニティ





大学生がきっかけをつくる 地域内でつながるコミュニティ



私大ネットの南三陸への貢献

産業

文化／教育

コミュニティ

私大ネットの南三陸への貢献



The background of the entire image is a lush green landscape. In the upper right, a portion of a house with light-colored siding and a window is visible, partially obscured by dense foliage. The lower half of the image shows two people sitting on a large, moss-covered log that spans across the frame. The person on the left is wearing light blue trousers and a green jacket, while the person on the right is wearing grey checkered trousers and a dark jacket. They are both looking down, and their legs are visible. The surrounding area is filled with various green plants and trees, creating a serene, natural setting.

私大ネットの南三陸への貢献

**「当たり前」が「宝」になるという
「価値観」の構築**

大学生が町を歩いているってことは
震災前じゃ考えられなかったこと。

震災で町がなにもなくなったなか
入谷の農村地帯を学生が歩いているだけで
「あぁいい光景だな」って思うんです。

町にとっては、ここに来て過ごしてもらうだけでも
ものすごい刺激をもらっているんですよ。

地域がどんどん若返っていき元気になる。
そんな不思議な存在ですね。

阿部博之さん



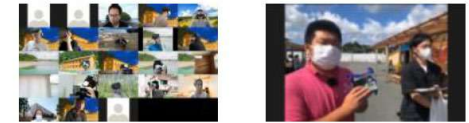
第2部

コロナ禍と私大ネット36 ～2021年度スタディツアー報告～



10年間の軌跡

成果報告シンポジウム



Act1 VRしごとツアー

～南三陸の同世代と考える未来の働き方～

大正大学 地域構想研究所 研究員 山中昌幸

大正大学 仏教学部 4年生 渡邊照正

こども教育宝仙大学 こども教育学部 3年生 大森治弥

大正大学 心理社会学部 1年生 谷垣慶仁

10年間の軌跡

成果報告シンポジウム

働くってどういうこと？ ～私大ネット36を通してわ かった気づいた自分の価値観～

大正大学 心理社会学部 人間科学科 1年
谷垣 慶仁



概要

- 1, プログラムを通して気づいた社会での働き方に対する自分の価値観
- 2, 現在に活着ていること
- 3, 未来に活かしていきたいこと

現代の1年生 の現状

- ・自分も含めて、1年生ではあまり**将来**のことを考えていない人が多い

- ・コロナ禍のなかで**先輩**との繋がりが少ない



ぼけーっと毎日
生活しているこ
とに危機感を覚
えた



自分にとって働くとは？

プログラムでの気づき

- 大手を目指して就職活動して東京で仕事をするのがいいこと……？
- 地方で自分の生活に合わせて仕事をするという選択肢

現在に活きていること

本や授業、テレビなどあらゆる媒体を通していろいろな職業を知る意欲

社会に対する関心や人に対する共感に繋がった

これから活かしていくこと

- 様々な職業を知って、インターネットや本、雑誌で調べる
- 様々なアルバイトを実際にやってみること

Act1 “VR”しごととツアー ～南三陸の同世代と考える未 来の働き方～に参加して

こども教育宝仙大学 こども教育学部 3年 大森治弥

○プログラムを通して

- 震災直後、多くの場面で判断力が必要とされたこと
- 震災復興には2段階あるということ
- 被災された地域の方々は「新しい人たち」に慣れていること
- 震災からのこの10年は「移住者メイン」で考えられていたこと

20代移住者の方々共通して

→自分の「**理想とする未来**」に対して見つめ、
創造できる日々を過ごせている。

「やりたかったことは？」

しごとに対して受け身な考え方が無くなった

||

充実した働きがいのあるしごとに
携われているということ



挑戦し始めることにタイムリミットはない

○プログラム終了後どのように生かしているか

- 将来のしごととして挑戦したいことを具体的に考える。
- 今できる経験や知識を得られる機会に積極的に向き合う。

「理想とする未来」のために

前向きに挑戦していく勇気を
もらえた貴重なスタディツアーでした。





私大ネット36に参加して

大正大学 仏教学部仏教学科 4年

渡邊照正



何故参加したのか

大正大学の授業である
「サービスマーケティング」という授業で
南三陸と大正大学の関りについて知り、
実際に訪れてみたかった。



実際はコロナ禍のため、現地には行け
なかったが、
VRならより現地の雰囲気を感じられる
のではないかと思い参加した。



11復興
21祈
Pray for
Miamisanbiki
大正大学
南三陸町

2011-12-13-14-15-16-17-18-19-20-21

震災からの10年とこれから

日時 | 2021/2/27 SAT (土)
13:00~15:30

場所 | YouTube Live
大正大学公式 YouTube アカウント

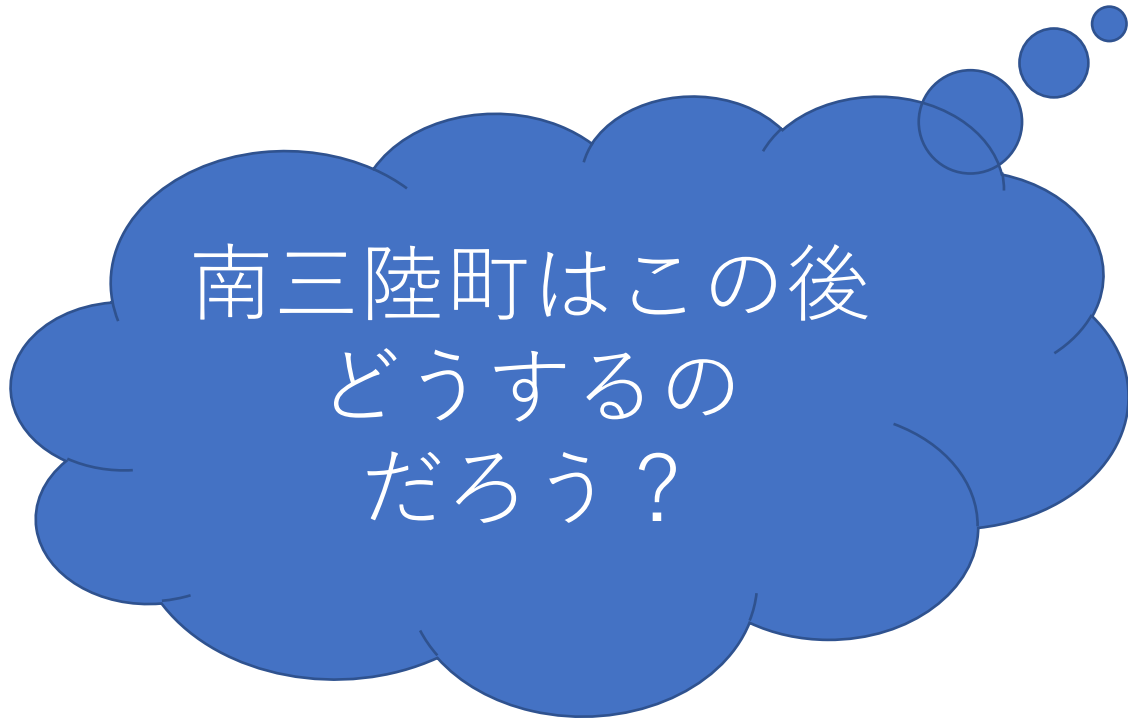
事前配送物 (希望者のみ) |
青いろうソク (命灯会) / 手作りのお香など

事前配送物を希望しない場合でも視聴可能です。
先着100名に青いろうソクと手作りのお香を無料でお送りします。
配送物を希望する方はこちらからお申し込みください。
(定員に達し次第フォームを締め切ります)

参加する前の自分



VRって
どんな感じ
なんだろう



南三陸町はこの後
どうするの
だろう？

今回学んだこと

○南三陸町の現状

- ・ 10年間で移住者がかなり増えていること
→着実に建物などが復興している。反面、Uターンする若者が減ってきている
- ・ 未来に向けた働き方を実践していること
→従来のやり方だけではなく、新しいことも取り入れている
また、移住者と地元の方も働きやすい環境が整っている。

参加した後の自分

「地元(千葉県成田市)
をもっと盛り上げたい！」
と思うように。



地元の現状は？今後の課題は？

→既存の空港・寺院ありきのまちづくりになっている

→従来のやり方を活かしつつ、

新しい形でもまちづくりはできないか。



今後どのように活かしていくか

- 参拝客
- 寺院関係者
- 地元民
- 空港関係者
- 海外からの観光客



それぞれの
枠を超えた
関係性の
構築を図る !!

今、出来ること

想い：皆が元気になる、人が多く集まってくるような街を作りたい！！



そのために今
地元のプロモーションを行う会社でアルバイトを行っている。
自分にとって何が大切か、何ができるかを
考えながら生きていく。



Act2 南三陸公式YouTubeチャンネルをバズらせろ！

埼玉工業大学 キャリア支援センター 助教 藤田拓勸

埼玉工業大学 工学部 3年生 井上 駿

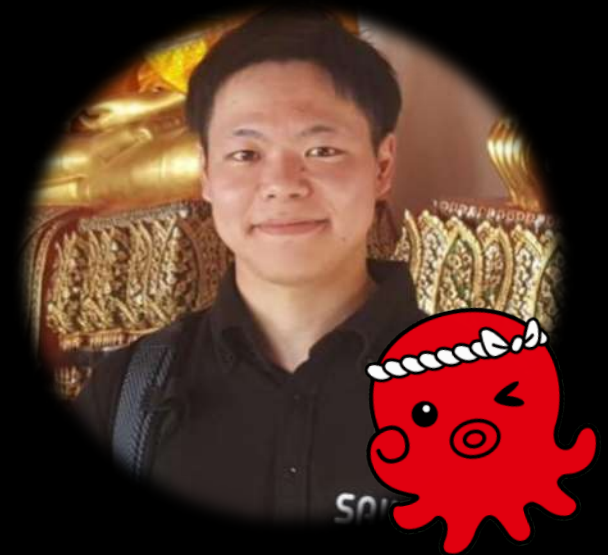
こども教育宝仙大学 こども教育学部 2年生 矢吹瑠菜

埼玉工業大学 人間社会学部 2年生 杉山倖菜

埼玉工業大学 工学部 1年生 楊 直登

東北再生「私大ネット36」 10年間の軌跡-成果報告シンポジウム- スタディツアー実施報告（ACT2）

2021年12月18日（土）
埼玉工業大学 キャリア支援センター
助教 藤田拓勸



南三陸町といえば？

見て、聴いて、嗅いで、触って、味わって、
“ **五感** ” で感じて欲しい！



講師としての私の思い



対面でやりたいです！！
なんとか！お願いします！
(キラキラ丼食べたい！)



オンラインでやりましょう



南三陸町に行ったことがない私



せめて一度視察をさせて欲しい！

**感染拡大リスクを考えると、
しょうがない・・・**

県またぎはなしで



企画の方向性

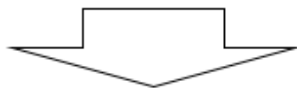
【南三陸町】

東日本大震災から11年が経過。
復興のまちづくりから平時のまちづ
くりへ変わっている（姥浦道生東北大教授）
原発の風評被害やコロナにより
観光業へ打撃。東北・新潟を地
方分散の受け皿へ。

（東北経済連合会の海輪誠会長）

【学生】

講義のオンライン化などにより
リアルが感じられない学生生活に。
1・2年生は友達がつくれないと嘆
く学生も。3・4年生はアルバイト
などもできず、就活で必ず聞かれ
るガクチカが語れない学生も



- ・南三陸町の未来を考えるプログラム
- ・リアルな体験を通して南三陸町を知る
- ・研修課題にチームで取り組むことで、友達・ガクチカをつくる

オンライン上で
チームワーク

南三陸町
の未来

南三陸町を
何かでPR

友達
ガクチカ

リアルな
体験

- ・ライブ配信
- ・現地のモノ

4 日間のプログラム

9月1日（水）

オリエンテーション、南三陸町オンラインツアー

9月2日（木）

被災地オンライン見学、バーチャル食べ歩き

9月3日（金）

チーム課題中間発表

9月4日（土）

成果発表、全体の振り返り

+ 日々のチーム活動
（研修時間外も・・・）

オンライン上で
チームワーク

南三陸町
の未来

南三陸町を
何かでPR

友達
ガクチカ

リアルな
体験

- ・ライブ配信
- ・現地のモノ

ライブ配信 × 現地のモノ

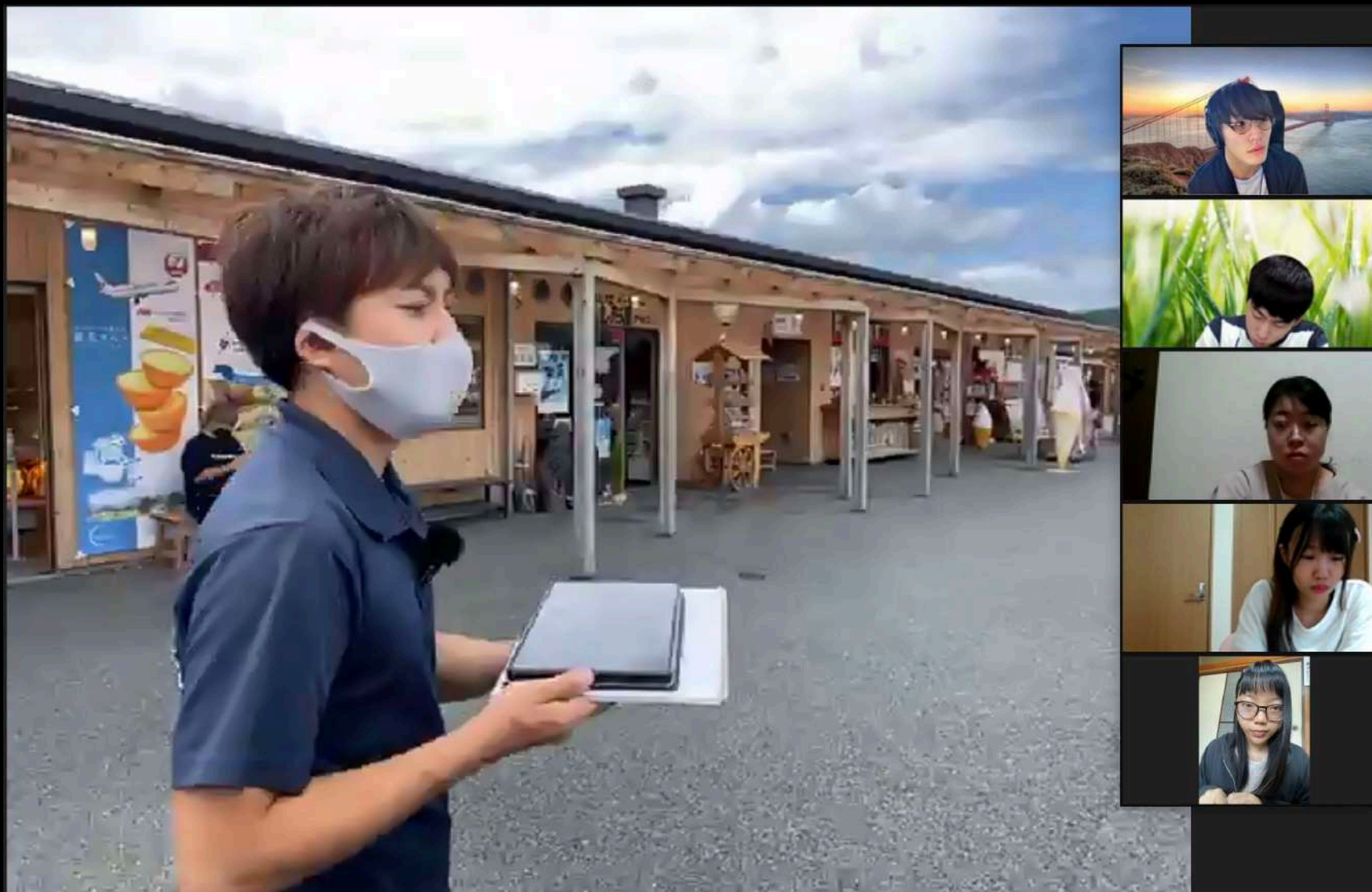
- ・南三陸町オンラインツアー
- ・被災地オンライン見学（語り部 阿部さん）
- ・南三陸町さんさん商店街
バーチャル食べ歩き

ライブ配信 × 現地のモノ

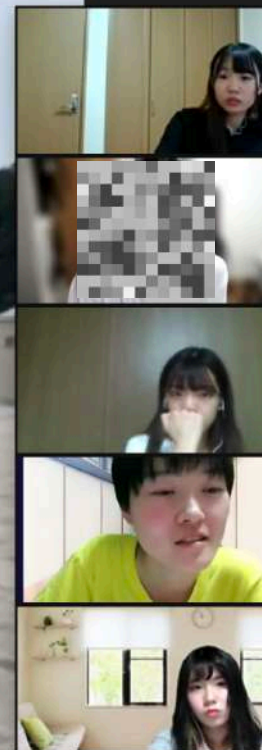
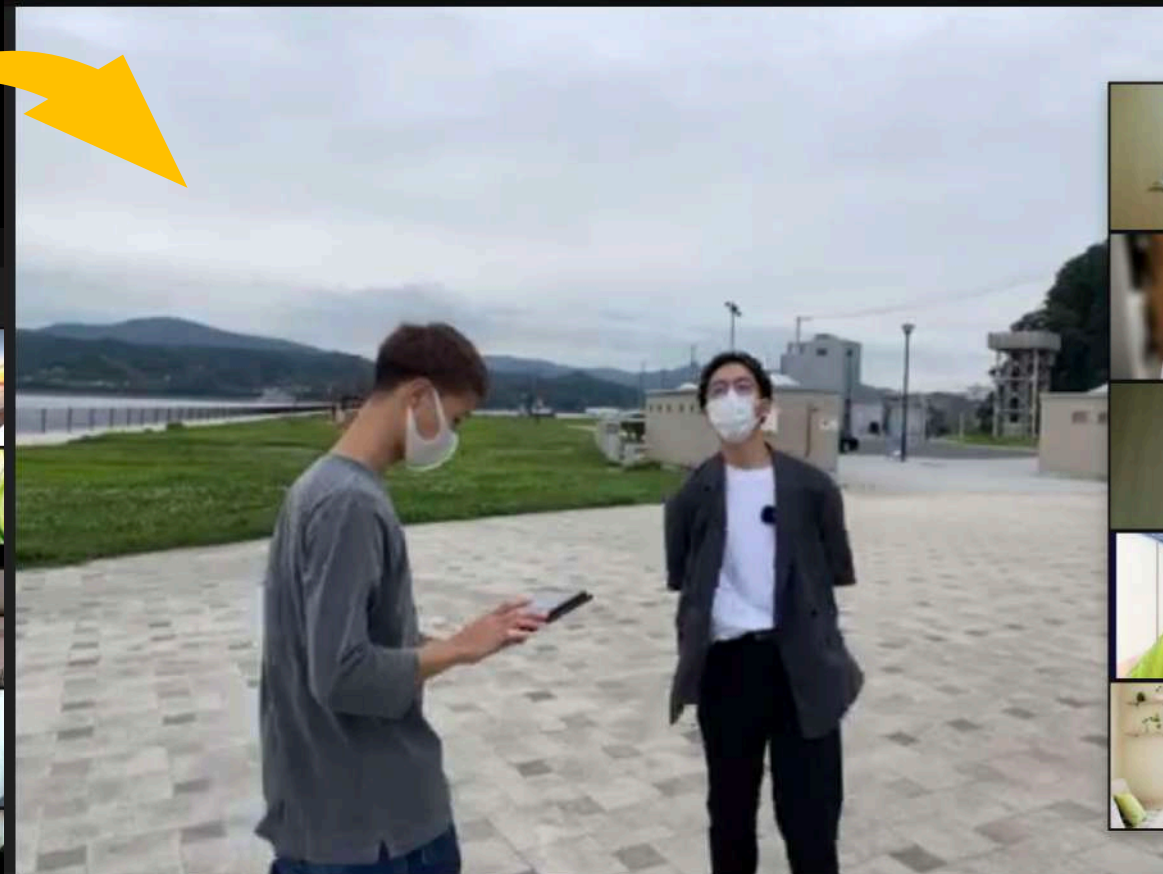
他にも
カレー
海苔
最中など



実際の様子①



実際の様子②



実際の様子③



実際の様子④（はらこ飯体験）



みんなで
炊き込んで

のつけて
完成！

学生からの声（アンケート抜粋）

今回のプログラムを通して南三陸の震災の様子と現在の様子を深く学びました。また、オンラインの中継や現地の食べ物を通して南三陸の魅力を知ることができて、とても満足しています。

学生からの声（アンケート抜粋）

視覚や味覚などの五感を使って学び、
自然を大切にするこゝろのありがたさを
学びました。

参加学生のみなさん
どうでしたか？

オンライン上で
チームワーク

南三陸町
の未来

南三陸町を
何かでPR

友達
ガクチカ

リアルな
体験

- ・ライブ配信
- ・現地のモノ

南三陸町PR × チームワーク



南三陸なうチャンネル「南三陸町公式」

チャンネル登録者数 1950人

ホーム

動画

再生リスト

コミュニティ

チャンネル

概要



童子山ワイン用ぶどう（シャルドネ）収穫 | NIGHT HARVEST Grape WINE Chardonnay | ナイトハーベスト | 南三陸ワイナリー | cinemat...

南三陸なうチャンネル「南三陸町公式」・406 回視聴・1 か月前

2017年から始まった南三陸ワインプロジェクト。入谷地区の童子山に植えられたワイン用ぶどう（シャルドネ）が2年目の収穫を迎えました。...

南三陸町PR × チームワーク

『 南三陸公式YouTubeチャンネルを
バズらせろ！ 』

→ チームごとに動画の企画案を立案
チーム対抗戦で優勝を競う！

参加学生

埼玉工業大	17名
こども教育宝仙大	01名
計	18名



4チームに分割

他大学から
唯一の参加！



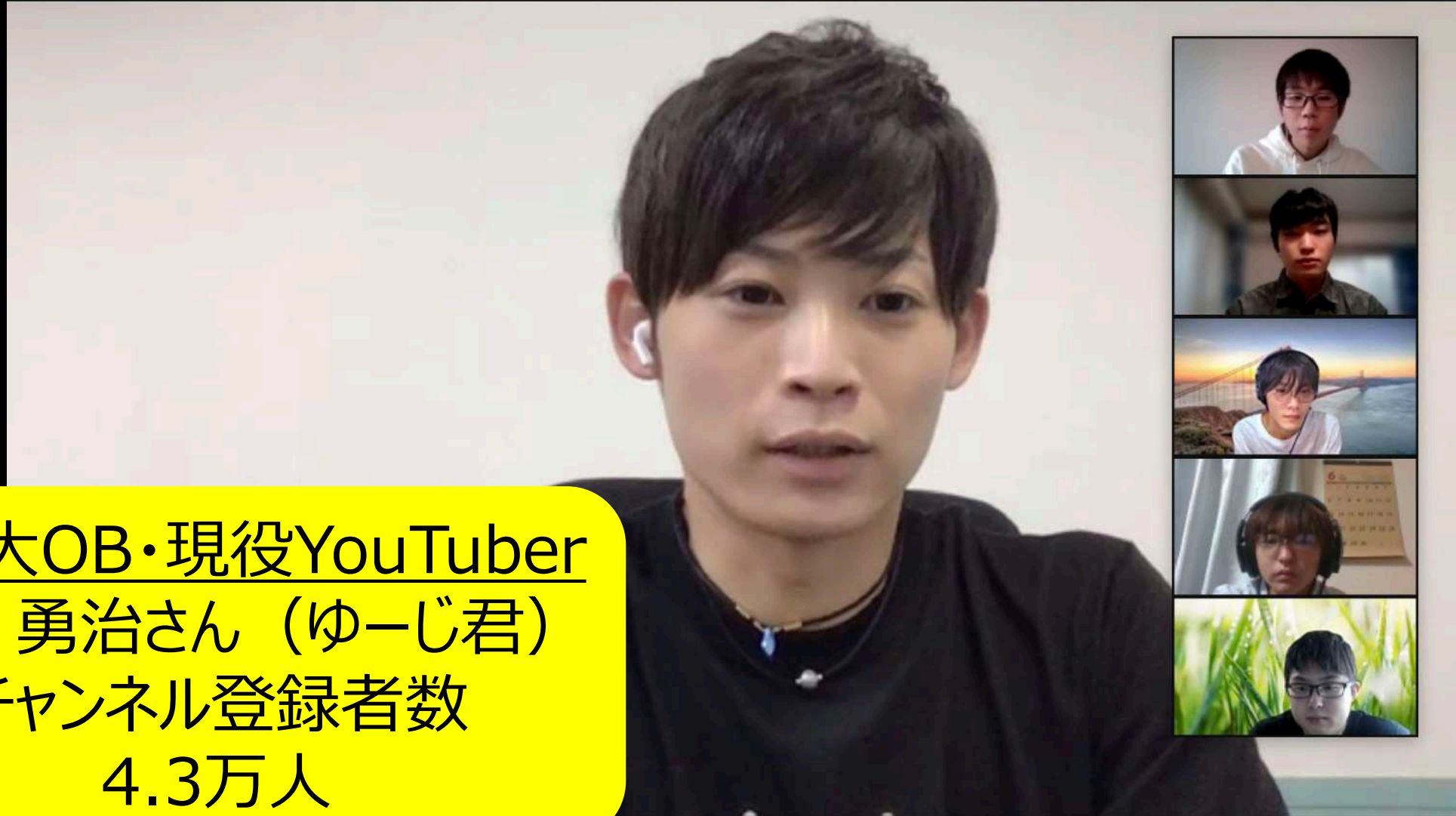
矢吹さん

南三陸町PR × チームワーク

ヒアリングシート	
動画を作るときのコンセプト、または意識していることは何ですか？	「南三陸＝震災」からの脱却。 「訪れて楽しいまち」「まちを訪れたらこの人に会いたい！」と思ってもらえる様な動画。
チャンネルとしての課題、または弱点は何ですか？	・若い世代の視聴者が少ない ・取り扱いテーマがいまだ定まらず ・コロナ禍による動画企画が難しい ・弊社で管理している動画以外に町のオフィシャルな案内などが入ってしまうことで、視聴者混乱してしまっているかも（これは今後も仕方ないことだが）
チャンネルとして今後達成したい目標は何ですか？	【長期目標】 ・南三陸町外に住む人がYoutubeを通じて、南三陸を知り、将来的なIターンのきっかけの一つとなる ・南三陸町で生まれ育ち、進学や就職で離れた人がYoutubeチャンネルを見続けることによって、南三陸町との関係を保ち続け、魅力的な町としてUターンするきっかけの一つとなる ・Youtubeチャンネルによる収益化により持続的な事業とする 【中期目標】 ・チャンネル登録1万人

チーム対抗戦の様子①

埼工大OB・現役YouTuber
櫻井 勇治さん（ゆーじ君）
チャンネル登録者数
4.3万人



チーム対抗戦の様子②

食べたいと
思ったから
だって
人間なもの



ズ切りをつける
ネルリンク。動画のリンクを乗せる。
役やお店のHPを乗せて売りに貢献する
る。広報活動に役立てる。
ーず #南三陸町 #花火 #海鮮井
つけていく！



南三陸なうチャンネル埼玉大支部

YOUTUBER

- ほーみーず
- チャンネル登録者数 57.9万人
- 宮城県出身
- 東北応援ソングを公開し復興に尽力



- ・画像だけを強調することができる
→強い共感が得られる
- ・人が話さない分動画を短くできる
→誰でも見やすい
- ・現地の音だけを流すことができる
→現地をイメージしやすい



学生からの声（アンケート抜粋）

参加前は、自分に自信がなく、何事も遅れてやっていた。参加後からは、自分に自信が付き、何事も積極的に自らやるようになりました。

学生からの声（アンケート抜粋）

プログラム参加前までは、自分の意見を伝

えることが苦手でした。ツアーに参加して、

自分に**一体どんな苦悩や成果が！？** **発言**

できるようになりました。

より詳細な内容を参加学生より！



私大ネット36Act2 活動報告

【埼玉工業大学】

情報システム 3年 井上 駿

心理 2年 杉山 倖菜

機械工学 1年 楊 直登

【こども教育宝仙大学】

幼児教育 2年 矢吹 瑠菜



【埼玉工業大学】
情報システム 3年
井上 駿

目次

- ・南三陸町について**学んだこと**（ 楊 ）
- ・チーム活動で**学んだこと**（ 杉山 ）
- ・研修を終えて**感じたこと**（ 矢吹 ）

南三陸町について学んだこと



【埼玉工業大学】
機械工学 1年 楊直登

スケジュール・研修内容

1日目	2日目	3日目	4日目
オリエンテーション 南三陸町オンラインツアー	東日本大震災体験談 バーチャル食べ歩き	中間発表	成果発表
チーム課題			

スケジュール・研修内容

1日目	2日目	3日目	4日目
オリエンテーション 南三陸町オンラインツアー	東日本大震災体験談 バーチャル食べ歩き	中間発表	成果発表
チーム課題			

南三陸町オンラインツアー



- ・ 神割崎やさんさん商店街を始めとした南三陸町のスポットを観光
- ・ 絶景スポットや施設を訪れ
南三陸町を知る
- ・ 「モアイスポット」と
呼ばれる場所も…

神割崎

きれいな日の出がみられる
南三陸屈指の絶景スポット

隣接するキャンプ場はハイシーズンに
家族連れなどでにぎわう



さんさん商店街

ご当地グルメ「キラキラ丼」が
食べられる人気の観光スポット

建築家・隈研吾氏が設計

コンセプトは

「あたたかく・やさしい空間」



東日本大震災体験談



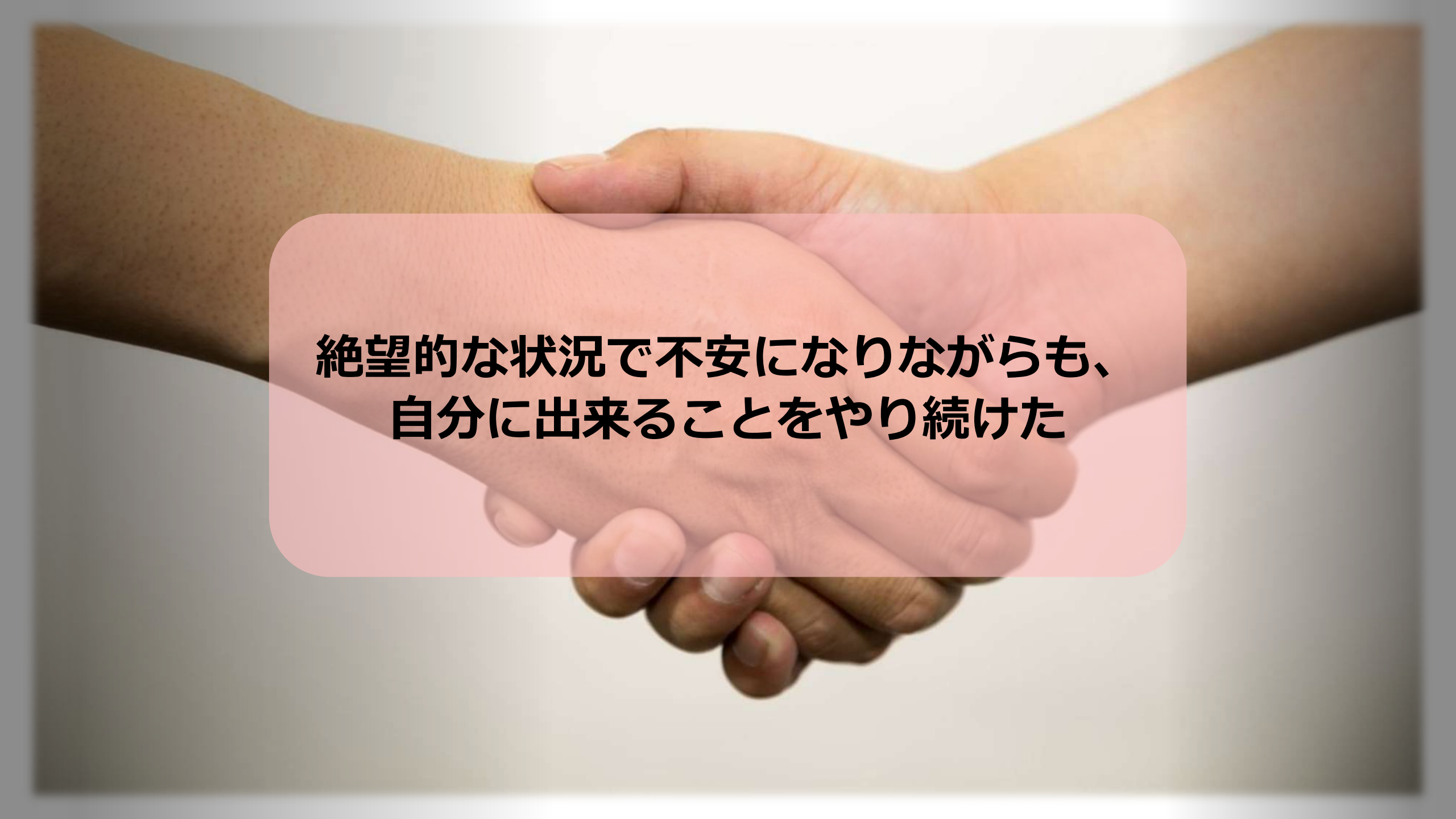
【語り部】

一般社団法人
南三陸町観光協会
阿部悠斗さん

被災時の状況



- 被災当時は中学二年生
- 通っていた学校の
体育館が避難所になる
- 家族の安否もわからず不安
- 避難した約300人のために
電源や飲み水を確保

A close-up photograph of two hands shaking in a firm, supportive grip. The hands are positioned centrally, with fingers interlaced. The skin tones are light and medium. The background is a soft, out-of-focus white. A semi-transparent pink rectangular box with rounded corners is overlaid on the center of the image, containing Japanese text.

**絶望的な状況で不安になりながらも、
自分に出来ることをやり続けた**

震災を乗り越えて…



- 福興一や夏祭りなど、多くのイベントを開催。
- 町内外、多くの協力により
活気のある街づくりを続けている。

これらの体験から学んだこと

南三陸町の豊かな自然を始めとした**魅力**

どんな状況でも**自分に出来ることをする**勇気

仲間と協力し、**前向きに進み続ける**姿勢



チーム活動で学んだこと



【埼玉工業大学】
心理 2年 杉山倅菜

スケジュール・研修内容

1日目	2日目	3日目	4日目
オリエンテーション 南三陸町オンラインツアー	東日本大震災体験談 バーチャル食べ歩き	中間発表	成果発表
チーム課題			

チーム課題



南三陸公式YouTubeにアップする
動画の企画



動画企画が初めてで、
何から始めていいか
わからない

アイデアが出ても
企画が難しい



A photograph of a business meeting in progress. Several people are seated around a white table, their hands and arms visible as they interact with documents and each other. The scene is captured from a high angle, focusing on the collaborative activity. A semi-transparent pink rectangular box is centered over the image, containing the Japanese text 'チームでの会議中の様子' (The atmosphere of a meeting in a team).

チームでの会議中の様子

チームの会議中の様子

- ・方針が早く決まる

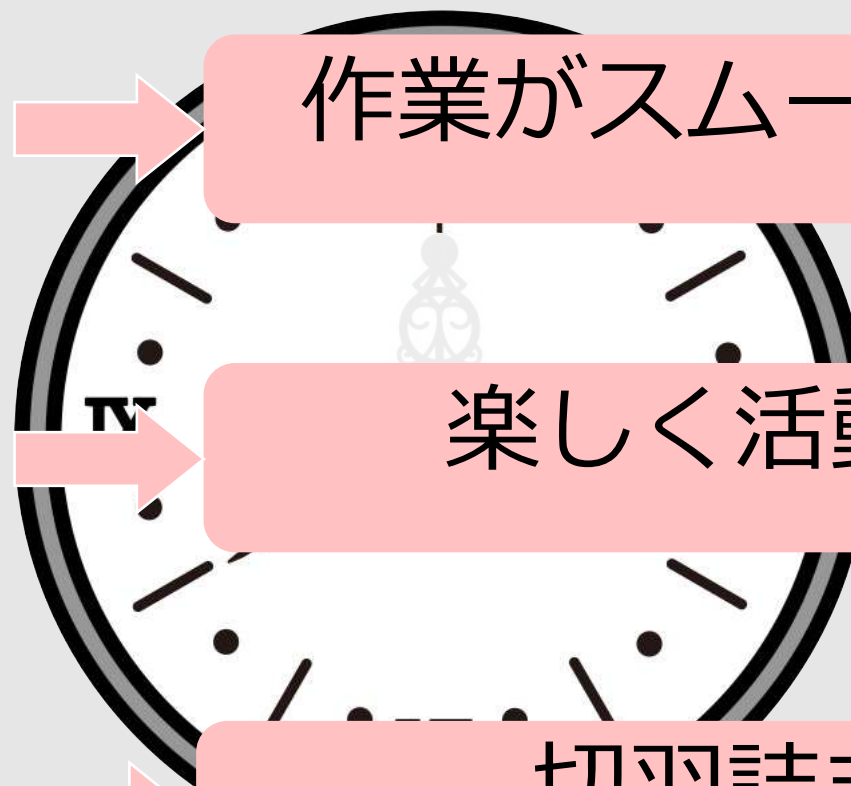
作業がスムーズに進んだ！

- ・早々に打ち解ける

楽しく活動できた！

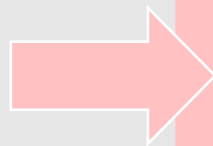
- ・方針がなかなか決まらない

切羽詰まった…



チームの会議中の様子

浅野さんや藤田先生に
積極的に質問する



**他の班は知らない情報を
GET!**

A person in a dark suit is seen from behind, standing on a high vantage point and raising their right arm in a celebratory gesture. The background is a blurred city skyline under a clear blue sky. A semi-transparent pink rounded rectangle is overlaid on the left side of the image, containing Japanese text.

チーム活動から**学んだこと**
身についた**力**

チーム活動で学んだこと

自分から発言することが苦手だった



**チームの雰囲気が高く、
積極的に話す力が身についた**

チーム活動で学んだこと

**作業がとてもスムーズに進み早い
段階で企画が完成したが、
細かい部分で見落としが目立った。**



**最後まで油断せず視野を広く持つこと
が重要だと知った。**

優勝チームの取り組み

**始めにどんなプレゼンが相手を納得
させることができるか？**



**より具体的な内容や数字を提示するの
が効果的と考えた。**

優勝チームの取り組み



多くを調査時間に費やす



WIN!



優勝チームの取り組み

数字やデータを活かした具体的な
プレゼンのやり方を学べた

多



研修を終えて感じたこと



【こども教育宝仙大学】
幼児教育 2年 矢吹瑠菜

南三陸町についての感想

**今回知ることができた南三陸町の
観光名所を巡りたい！**

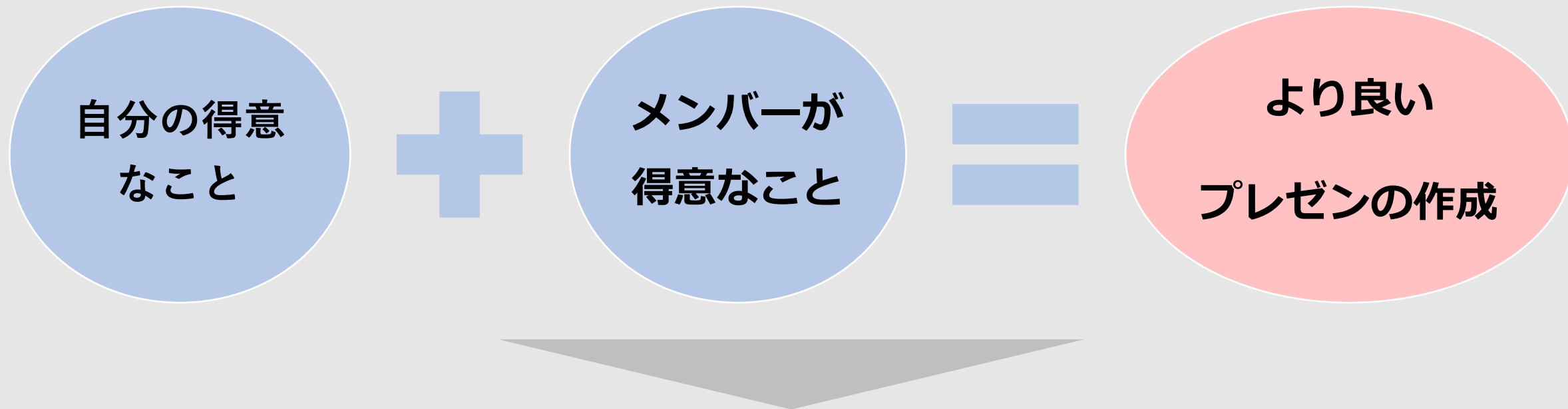
南三陸町の美味しいものを堪能したい！

**家族や友人と一緒に
旅行したい！**

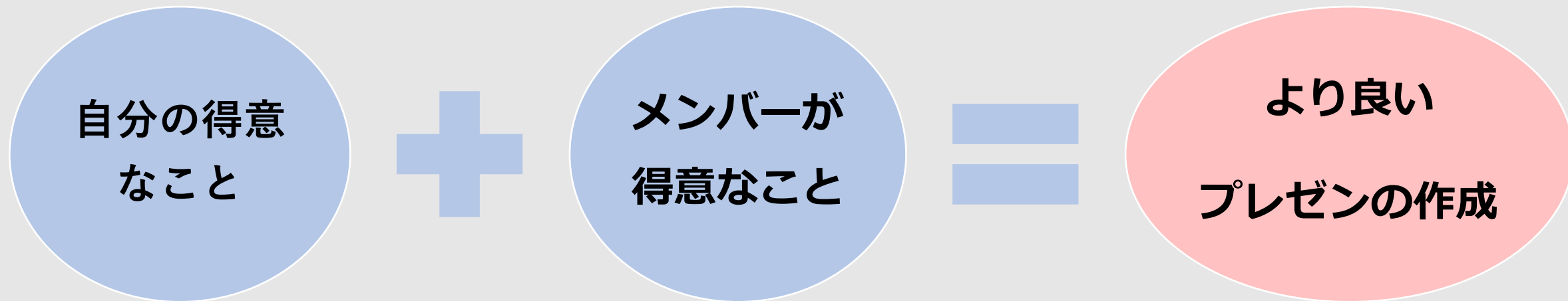
A person wearing blue jeans and white sneakers with black stripes is walking on a paved path. They are pulling a blue and yellow rolling suitcase. The background shows a blurred view of a path and some greenery.

南三陸町を実際に訪れてみたい！

チーム活動を通しての感想

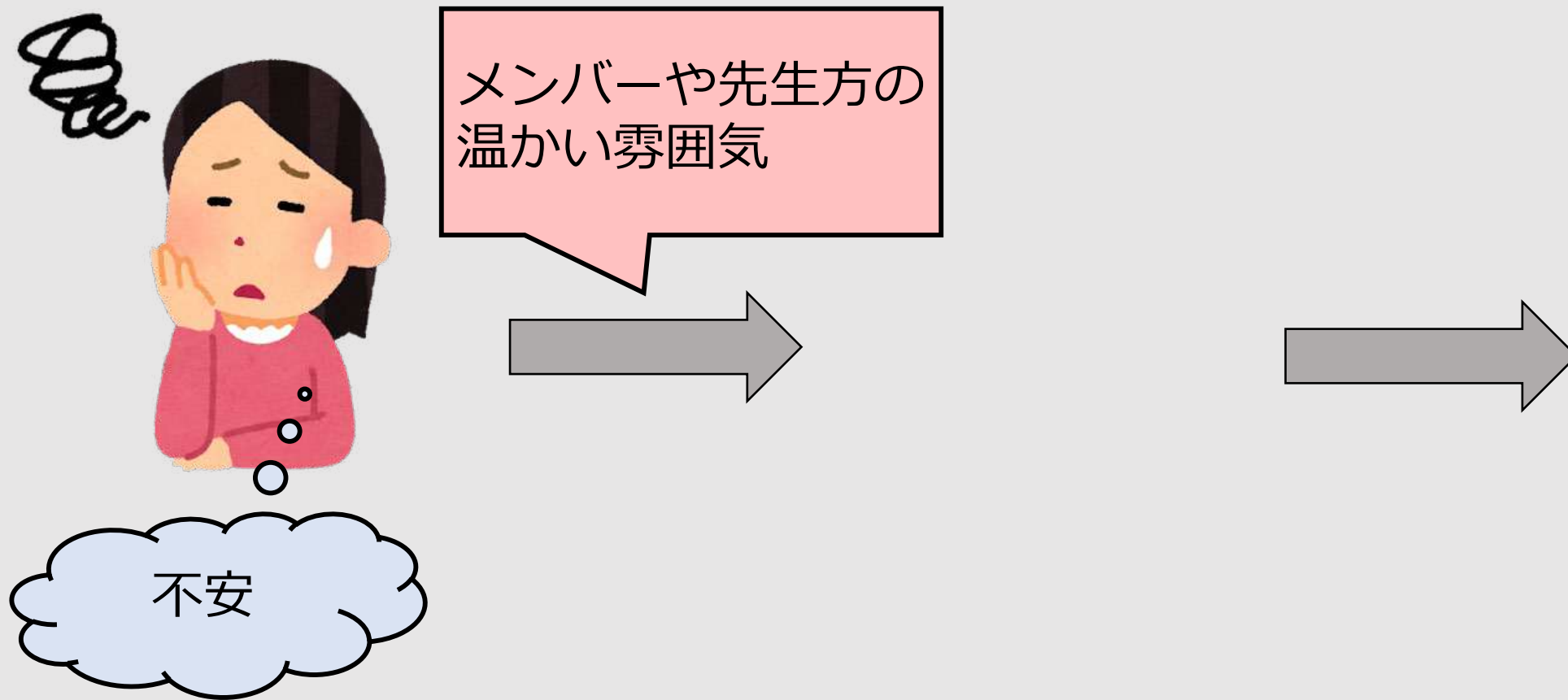


チーム活動を通しての感想



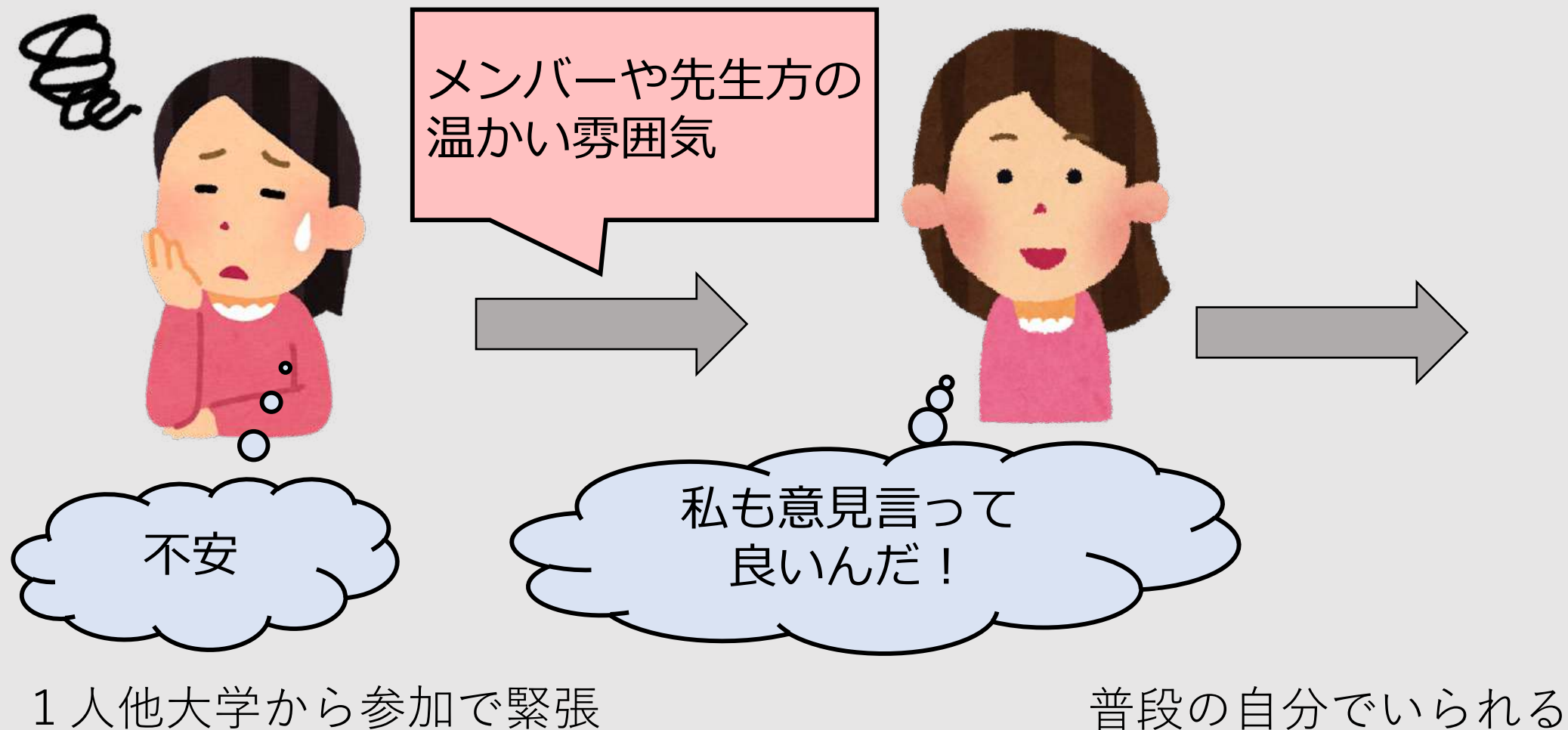
チームワークの重要性を改めて実感！

チーム活動を通しての感想



1 人他大学から参加で緊張

チーム活動を通しての感想



チーム活動を通しての感想



1 人他大学から参加で緊張

普段の自分でいられる

おわりに

今回学んだことを活かして…

今後も南三陸町の復興に貢献したい！

今回学んだことを活かして…

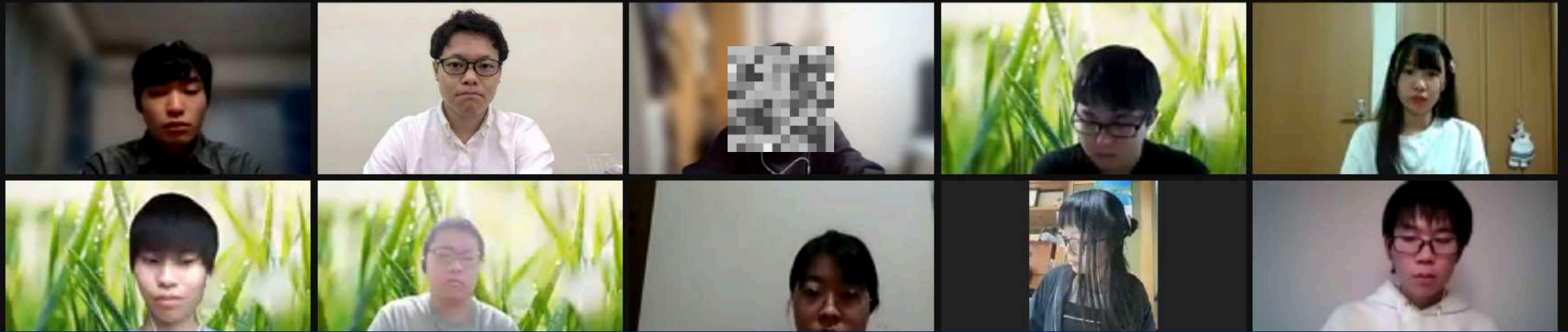
**チームワークで学んだことを活かして
社会に貢献していきたい！**

**ご清聴いただき
ありがとうございました！**

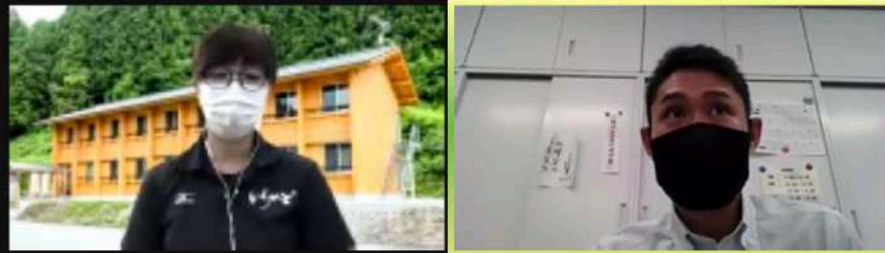
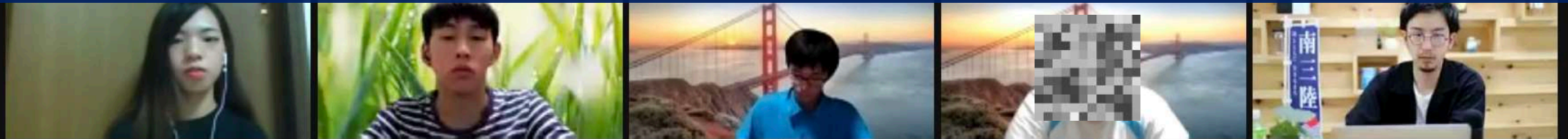


ありがとうございました！





まとめ



南三陸町についての気付き

復興は” 見た目 ”だけではないこと
(人の心に残った傷、記憶)



スタディツアーに関する気付き

オンラインに「**決めること**」は簡単

オンラインで「**実施すること**」は困難

【重要なこと】

目的に沿ったオンライン・対面の使い分け

私大ネット36での気付きを未来へ・・・

東日本大震災で歩みを止めなかった
南三陸町のように、新型コロナに負けず
我々も前に進み続けることが重要
これで未来は切り拓ける！！





ご清聴ありがとうございました

第3部

卒業生と私大ネット36



10年間の軌跡

成果報告シンポジウム



卒業生にとって 「私大ネット36」とは何だったのか

大正大学 表現学部 卒業生 星野由梨さん

埼玉工業大学 工学部 卒業生 長岡恭一郎さん

こども教育宝仙大学 こども教育学部 卒業生 保戸塚美結さん

(ファシリテーター：大正大学 専任講師 齋藤知明)

10年間の軌跡

成果報告シンポジウム